

北海之光

12月号 北海道教区報

主はわたしたちに道を示される
わたしたちはその道を歩もう

イザヤ書2章3節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

ダイソーのサンタさん

網走聖ペテロ教会牧師
北見聖ヤコブ教会牧師
紋別聖マリヤ教会管理牧師
司祭 フランシスコ 飯野正行

クリスマス。白い雪にイルミネーションが輝き零れるよう。でも私が一番感じ入るのは、プレゼントの飼葉桶。イエス様が生まれたのは馬小屋。「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」から(ルカ二・七)。直訳「宿屋には彼らの居場所がなかった」。この貧しさがたまらなく語りかける。

ファミリーホームのあ。小規模住居型児童養育事業。何らかの事情で親と暮らすことの出来ない子どもたちが、支え合いながら共に生活している。居場所を失った子どもたちが、自分たちの境遇に気づきつつも、励まし合い、必死に生きている子どもたちだ。「お母さんに会いたい」と泣く幼な子を、同じ境遇の年上の子が慰め励ましている姿

に、たまらない気持ちになる。大人には大人の事情がある。入院、障がい、死亡、投獄など多くの事情は起こり得る。けれども、これらだけが起きている事情ではない。大人一人ひとりの、プライベートルーム、もつとディーブな、引きずっている「大人の事情」がそれだ。多くの子どもたちがその「大人の事情」の故に、居場所を失い、ホームに来ている。

世界で初めてのクリスマスもこの「大人の事情」が流れている気がしてならない。ベツレヘムはヨセフの出身地。実家なり親類の家なりが少しはあったはず。それなのに何故宿屋の扉を叩かなければならなかったのか。また、住民登録のためいくら混雑しているとは言え、気の毒目に見える



二人を見ながら、何の手立ても取らない。すべての宿屋の戸が荒々しく何故閉ざされなければならなかったのか。何か大人の事情が流れている気がしてならない。これらの流れの中で、愛と悲しみに疲れ果てたヨセフとマリヤは、貧しき馬小屋へと導かれ、そこでイエス様がお生まれになるのです。『きよしこの夜』が聴こえてきそうです。

ホームには親との面会が出来る子もいます。でも一人の子だけが、ママに会えていませんでした。三年間もです。輝く素敵な笑顔の子。消灯の時に必ず涙ぐむ子。何かしてあげられないかと心震える日々。二カ月前のこと、その子の誕生日だったので、私がプレゼントしたのはダイソーで買った安物のサンタさん。まだ時期的におかしいのですが、この子が人生の中で素敵なプレゼントをたくさんいただけますようにとの願いからでした。その数日後、神への畏れを覚える出来事が起こりました。その子が、三年間会えなかったママに、会う

ことが出来たのです。あの誕生日会の日から、その子は、ずっとサンタさんを抱っこして寝ていたのです。主は本当に見ておられた、そんな思いになるのです。ダイソーのサンタさんを抱っこして寝るその子の姿と、ベツレヘムの馬小屋の飼葉桶が、私には重なって見えるのです。人目に触れない所にもクリスマスはあるんですね。

ホーム担当のサンタさんはあわてん坊。クリスマス前やって来るのですから。それに忘れん坊。何回もプレゼントを持って来るかも。

メリークリスマス!

日本聖公会北海道教区第八三(定期)

教区会主教告辞



主教 マリア・グレイス

笹 森 田 鶴

【一、はじめに】

北海道教区第八三(定期) 教区会開催にあたり、広い北海道の各地から、しかもこの寒くなる季節にご参集くださいました教役者議員、信徒代議員、教区役員の皆様、また今教区会のためにご準備、ご奉仕くださいます書記局はじめ教区事務所職員の皆様に深く感謝申し上げます。

二〇世紀の後半、次世紀に向けての夢のひとつとして、二一世紀は平和の時代という希望が語られていました。しかしながら大変残念なことに今も、世界において戦闘は止むことがありません。何よりも今わたしたちは、ひたすら神の正義と公正が実ることを、そしてウクライナへのロシア侵攻、ハマスとイスラエル、またミャンマーやその他

世界各地での殺戮と暴力が一日も早く終わり、すべての人質が解放されますことを祈ります。そして逃げ惑わなければならぬ方々、ことごとくもたち、高齢の方々、病氣や怪我をしている方々のいのちが守られますことを心から願います。

わたしたち北海道教区が、神の正義と平和の実現のための器として整えられ、用いられますように。そのために、わたしたち北海道教区の重要な意思決定機関であるこの第八三(定期)教区会に、聖霊のお導きがありますことを祈り求めます。

【二、二〇二三年日本聖公会宣教協議会】

今年日本聖公会において大変重要な会議、二〇二三年

年日本聖公会宣教協議会が一月に清里清泉寮で一三〇余名の参加者によって開催されました。北海道教区からも、代表七名と委員会・団体代表四名の一一名が参加しました。

日本聖公会においてはこれまで二度の宣教協議会が開催され、一九九五年には「歴史への責任と二一世紀への展望」というテーマのもと、戦後五〇年という節目にあたり福音に立脚した上でのアジア諸教会に向けた戦争責任の確認がなされました。二〇二二年には、前年の東日本大震災ならびに福島第一原子力発電所事故を経た状況の中で、「いのち、尊厳限らないもの―宣教する共同体のありようをもとめて」というテーマで、「日本聖公会(宣教・牧会の十年)提言」がまとめられました。そして今後一層教会が地域社会に対する丁寧な宣教牧会を行い、一〇年後にその実りを持ち寄って再び集まること約束されました。

その約束に基づき、二〇二二年と同様のテーマに「となりびとになるために」という視点を加え、本協議会は開催さ

れました。各教区や委員会、諸団体のこの一〇年の実りを分かち合うことから始まり、決して大きくない各地の教会の現場の声、そして様々な課題(保育の現場、隣人への傾聴、カルト問題、セクシュアルマイノリティと信仰、貧困の現場)に長年向き合ってきた方々の声を聴き、宣教協働区毎に出会い、み言葉に向き合い、祈り、これからの宣教課題について語り合いました。この宣教協議会報告のためにとめられた北海道教区の取り組みは、それぞれが多様で多彩でありました。わたしたちの歩みは積み重なって大切な実りを生み出していることに大いに励まされました。今後、本宣教協議会での詳細なまとめと呼びかけが作成され、各教区に届けられることになっております。これらの分かち合いの時をぜひ設定していきたいと願っております。

人事関連(公示参照) 阿部恵子司祭は、定年退職後も引き続き帯広聖公会嘱託及び帯広聖公会嘱託チャプレンとしてご奉仕くださっていました。三月末日で嘱託を終了されています。心から感謝申し上げますとともに、そのお体を主が守ってくださいますよう祈ります。

【三、人事】

教役者の人事について申し上げます。

中略 (二〇二三年一月二〇日付)

今年もこれまで同様、内海信武司祭、甲斐博邦司祭、藤井八郎司祭にはそれぞれ嘱託司祭および嘱託チャプレン、また協働嘱託として長年お働きいただいております。ことにダビデ藤井八郎司祭には昨年夏からの闘病生活においても、司祭としてご奉仕を賜っており。しかしながら、大変残念なことに、この一〇月に藤井八郎先生を主のみ許にお送りすることとなりました。寂しさや悲しさはさう簡単には癒えませんが、そのご生涯、またその存在の故に神に感謝と賛美を皆さまとともにおさげしたいと思っております。藤井司祭をお支えくださったご家族、また函館聖ヨハネ教会、今金インマヌエル教会の皆さまに、心からの感謝を申し上げます。

今年もこれまで同様、内海信武司祭、甲斐博邦司祭、藤井八郎司祭にはそれぞれ嘱託司祭および嘱託チャプレン、また協働嘱託として長年お働きいただいております。ことにダビデ藤井八郎司祭には昨年夏からの闘病生活においても、司祭としてご奉仕を賜っており。しかしながら、大変残念なことに、この一〇月に藤井八郎先生を主のみ許にお送りすることとなりました。寂しさや悲しさはさう簡単には癒えませんが、そのご生涯、またその存在の故に神に感謝と賛美を皆さまとともにおさげしたいと思っております。藤井司祭をお支えくださったご家族、また函館聖ヨハネ教会、今金インマヌエル教会の皆さまに、心からの感謝を申し上げます。

また、各教会の主日礼拝には、横山明光司祭、阿部恵子司祭、阿部芳克司祭が継続的にご奉仕くださっています。これらの退職された司祭方のお支えなしには現在の北海道教区の司牧宣教の働きは成り立ちません。この教区会におきまして、改めて退職聖職の皆様方に深く感謝申し上げます。

人事は「人の事」と書きます。それはその方の人生に関わる事という意味であると常々肝に銘じております。異動のあった聖職またそのご家族は、生活圏も含めた変化を受けます。その聖職の職務や生活を各教会の信徒の方々が祈りをもってお支えくださっていることに感謝申し上げます。また、この四月から新しい生活を始めている方々に神のみ守りを祈ります。

【四、聖職養成・信徒の働き】

昨年も教区の現状における、またさらに将来における一層の聖職不足ということについてお話をし、新たに聖職志願をする方は、ほぼわたしたちの教区の信徒の中から生まれ出てくる方であることを申し上げました。志願から按

手までの道のりは大変長い道のりで、識別の旅です。この道のりをその人だけではなく、皆さまがともに歩み、信仰の友を押し出してくださり、北海道教区に奉職する方が主によって召し出されますよう、ご一緒に祈り求めています。ご一緒に祈り求めています。

同時に、わたしたちは聖職と信徒の協働について、具体的な模索と実践をしていかなければなりません。それぞれ固有の役割がありつつも、キリストの弟子として平等な関係の中で相互に協力し、教会が神と人とのための宣教奉仕の器となっていくために、わたしたちのこれまでの発想を転換し、新しい宣教体制のイメージを共有していく時に来ています。

聖公会神学院では通常の全寮制での学びの機会や特任聖職特別コースの他、信徒奉仕・召命コースがオンラインでも提供されております。今後求められる多様な聖職・信徒の働き方のひとつとして、各教会でも積極的な検討やお勧めをお願い申し上げます。また引き続き、教役者の休暇の取得、職務にあたる時間など、

基本的な環境整備やお勧めをして参りたいと思います。

【五、セーフチャーチ・ガイドライン】

二〇一九年に開催された第一七回全聖公会中央協議会(ACC-17)において、全聖公会がセーフチャーチ・ガイドラインを施行するよう勧告が出されました。これは昨年のランバス会議でも取り上げられ、アングリカン・コミュニケーション諸管区のすべての人たちが、ことに子ども、青年、弱い立場のおとなの安全を高めることを目的としているものです。そして教会ワーカー、すなわち教会の働き人である教役者、職員、教会委員、教区の役員・代議員、信徒奉事者などの方々が、日々の教会活動や教会の組織運営において、子どもや青年、弱い立場におかれた人々の尊厳を傷つけたり、危険にさらしたりすることのないよう、教会組織として取り組む内容を記したものです。現在、分かりやすく訳されたセーフチャーチ・ガイドライン日本聖公会版が策定されているところです。すでに教区の聖職や常置委

員の皆様には資料を配布し、読みあわせを実施しておりますが、この度、教区会信徒代議員の皆様へも配布し、読んでいただいた感想などを管区事務局にお寄せいただきたいという依頼が管区より寄せられております。本教区会にて資料を配布しておりますので、ぜひお読みいただき、資料巻末に記載されている管区の連絡先までご意見やご感想、またご質問等をお送りくださいますようお願い致します。

日本社会や日本聖公会の状況に合わせたガイドラインが今後出てくるとしても、教会がすべての人々、ことに立場を弱くされている人々にとって安心安全な場所になるための指針は大きく変わることはありません。「虐待」とその防止についての社会的理解にここ一〇年で大きな変化があったことについて、わたしたちの教会が追いついていないという現状もあります。反対にそれでも教会が率先して変化していくことができれば、社会も変化していくことができます証にもなります。早速にわたしたちは自らの有り様を検証し、必要な変革をし

ていく取り組みの実施が求められています。本来起こってはいけない「虐待」が教会の中でも起こっているという厳しい現実の底辺には、力関係のある構造の中での関係性があります。自分たちの中にあるさまざまな力関係の不均衡を、タブー視せずに無くしていく選り取りをしてきたいと願います。

管区で今年七年ぶりに開催された日本聖公会青年大会、また二〇二三年日本聖公会宣教協議会においても、このセーフ・チャーチガイドラインによる大会ルールが定められ、平等で相互的な参加者の関係や対話の構築への努力が行われました。このような具体的な大会運営の指針も今後北海道教区のあらゆる営みの中に導入していきたいと考えております。

一方、これまでの常識と思われていたことや感覚、また考え方や関係の持ち方、呼称や言動などを検証し直し、自己変革を実施していくことは大変難しいことです。敏感な感性や対応などを養う繰り返しの学びの機会が必要です。教区のハラスメント防止委員

会などとも協力し、折々の研修会の開催などを実施したいと考えております。皆様の積極的なご参加によって北海道教区が神の愛と平和を映し出す器として整えられていくようにと願っております。

【六、「二〇二二〇運動」】

アングリカン・コミュニケーションからの呼びかけのみならず、二〇二二年宣教協議会をきっかけとする管区から各教区への呼びかけとして、「二〇二二〇運動」がございました。これはあらゆる教会の意思決定機関に女性が平等に参画するために、二〇二二年までに少なくとも女性の参加については三〇％を目指すという運動でした。管区女性の課題に関する担当者(通称「女性デスク」)による、昨年と今年の各教区の実態調査やアンケートの詳細が各教会に送付されておりますので、ぜひ御覧ください。教区や役職による違いはありますが、北海道教区における特徴として、教会委員会では多くの女性たちが参画しているにもかかわらず、教区の委員長や機関の代表は男性に偏り

がちということがあります。二〇二一年以前の〇％から、昨年はアップしているのですが、教区主教が役職上兼務する規定による修正が主要因であり、この運動の実りとは残念ながら言い難いようです。

また、今年四年ぶりに教区婦人会の総会が開催され、会長職の選挙が行われました。お一人の方ではなく、今回はじめて教会に会長職を委ねるという方法が取られました。それでも教会内で会長職を依頼することの困難さを婦人会の皆さんはそれまで同様に抱えていらつしやいました。

さまざまな要因が考えられるとは思いますが、教会の中での代表の役割を性差にかかわらず担ってきたという教会としての経験の少なさが、リーダーシップの有り様や会議の方法などの幅を生み出せず、誰かが代表を担うということへの躊躇や不安を女性たちが潜在的に持っているとするならば、これは教区婦人会だけの課題ではなく、北海道教区全体の課題として受け止めるべきではないことであるかと思えます。

それぞれの個性を生かしな

がら、相互にジェンダーから解放されて役割が担われていく、多様な信仰共同体の形成をわたしたちは求めていきたいと願います。多様な人々の構成が可視化されている共同体は、単一的な共同体よりも視点や価値観の幅や力強さを含み、教会運営や働きに新しい風や変化をもたらして活性化を促します。そして何よりも声を小さくされている方々の声が届けられる共同体へとなっていくべきです。このような運動を通しての変革を引き続き実践して参りましょう。

【七、東日本宣教協働・チーム北国、宣教一五〇年に向けて】

両教区の動きを参考にしながら、北海道・東北両教区がともに歩んでいくことに期待をしております。その期待は、具体的で即効的な課題の解決ではなく、むしろ困難な状況の中にあっても信仰に裏付けられた希望と夢を持ち続ける、キリストの弟子としての霊的刷新に向けての期待です。その一歩として、まずは東北教区の教区会に参集されている方々と出会うことから始めるというプログラムを後ほどご用意しております。また議案についての審議もどうぞよろしく願います。

昨年の教区会においてご決議いただいたチーム北国の活動は、今年四月、東北教区第九代教区主教長谷川清純師の誕生以来積極的に進められてきました。そして長谷川主教の定年退職となる五年後を目処に宣教協働ならびに教区再編を具体的に検討実施していくという議案が本教区会に上程されております。東日本宣教協働区の中でもいち早く取り組みを始めた北関東・東京

りましょう。

【八、さいごに】

今年は藤井八郎司祭だけでなく、五月にはアキラ上平仁志司祭を、さらに今週はじめにパウロ寺本睦夫司祭をそれぞれ神のみ許にお送りすることとなりました。これまでの上平仁志司祭、寺本睦夫司祭の北海道教区を通しての働きやお交わりに感謝し、主を賛美します。大きな支柱を失い途方にくれそうになりましたが、これまでいただいた恵みを大切に、これからの宣教牧会に邁進してまいりたいと思います。上平仁志司祭、藤井八郎司祭、寺本睦夫司祭、また今年逝去されたすべての方々の主のみ許での永遠の平安とご家族への慰めをお祈り申し上げます。

すべての命をつなげてくださる主イエス・キリストを賛美します。今教区会期においても、北海道教区のありとあらゆる営み、そして関係するすべての方々に、神の祝福とお導きが一層豊かにありますようにお祈りいたします。

ご清聴、ありがとうございます。

二〇二三年日本聖公会宣教協議会

「このち、尊厳限りないもの」となりびととなるために」

札幌キリスト教会 津田 尚

二〇二三年十一月一日(金)から二三日(月)の日程で、山梨県清里・清泉寮に、全ての教区主教をはじめ各教区代表、管区諸委員会など信徒・教役者一三二名が集い、「二〇二三年日本聖公会宣教協議会」が開催されました。今回の宣教協議会は「二〇二二年日本聖公会宣教協議会」から一〇年後に「宣教・牧会」の実りを持ち寄るという約束を受けて開かれました。

コロナの影響で一年間の延期を経ての開催となりましたが、共に考え、より豊かな宣教協議会に備えるための時間でもありました。

第一日目、一教区と各委員会の「実り持ち寄りブース」紹介では、一一年間の実りや歩みを持ち寄り紹介し合い、交流しました。

北海道教区からの紹介

①教会のミッションステートメント【各教会がミッションステートメントを作成し、持ち味を生かした宣教に取り組

んでいること】②婦人会・青年・GFS【北海道教区は各グループの活動が継続されていること】③出合いと交わりの日【講壇交換】【年に一回司祭が講壇交換を行い、教区レベルで聖職と信徒の交わりを深めていること】④信仰のデザインノート【教会版のエンディングノートを作成し信徒が信仰を最後までデザインできる工夫】⑤チーム北国【東北教区と北海道教区は教区再編、宣教協働を目指して取り組んでいること】⑥宣教一五〇年【二〇二四年北海道教区は宣教一五〇年を迎えること】一五〇年記念グッズ【缶バッジ、ボールペン、バッグの販売も行う(好評)】⑦保育園・幼稚園【社法・学法一元化で教区主教が理事長をとする組織を通して、キリスト教教育に力を入れてきたこと】⑧主教交代【二五年ぶりの主教交代があり、日本聖公会では初めての女性の主教をお迎えしたこと】⑨教会の再編と伝道所設立【三つの教会が近

隣教会と合併し、二つの伝道所ができたこと】⑩GFSの取り組みの【GFSが不定期で作っているキャラメルを配布した】⑪ノー原発への取り組み【二〇一九年ドイツのミランダさんを招いて「北海道を原発ゼロの大地に」という講演を開いた】

続いて、一日目夜の「私たちのあゆみ」物語を聴く」で、沖繩と九州と東北の三つの教会のこの一年間の実りと信仰生活を続ける中での思いを聴き、大きな励ましと感動を受けました。二日目以降は、「いのちの現場から聴く」で、いつも「となりびと」を大切にしながら歩んでこれた五名の語り手からお話を聞き、さらに分科会で掘り下げ、グループシェアリングでは教区・年齢・性別の異なる七〜八人で、この一年の振り返りとこれからについて語り合い、新しい宣教の歩みについて共に考えました。その他、「バイブルシェアリング」、青年による「分かち合いの礼拝」「主教会からのメッセージ」「宣教協働区アワー」【二〇二三年宣教協議会からの呼びかけ】作成の意見交換、さらに二度の聖餐式等、朝早

くから夜遅くまで実に濃い時間を過ごすことができました。最後に「清里からの呼びかけ」の提案がなされましたが、時間的な制約で二〇二二年の提言を受けての振り返りと今後の展望については、今後さらに継続して検討していくことになりました。実行委員をはじめ多くの方のご努力で、実り多い宣教協議会に参加することができたことを心から感謝申し上げます。

常置委員会報告

臨時十一月三日

協議事項

一、第八三(定期)教区会に於いて選出された常置委員は、大町信也司祭、下澤昌司司祭、永谷亮司祭。信徒は、大友宣さん、小澤暢子さん、吉谷かおるさん。

二、第一回(臨時)常置委員会に於いて、常置委員長に大町信也司祭、書記に小澤暢子さんを選出した。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

一月二〇日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭	デイビッド・M・ラング	一九四六年一月一日	司祭	小川 淳	一九〇七年一月二三日
伝道師	千葉 今	一九四三年一月二日	司祭	松本 正雄	一九七一年一月二六日
伝道師	田澤 廉	一九四五年一月八日	司祭	野坂 保三	一九七五年一月二八日
伝道師	エディス・M・ブライアント	一九三四年一月一〇日	司祭	佐々木 忠良	二〇〇五年一月二八日
伝道師	遠藤 義三	一九二三年一月一二日	司祭	遠藤 栄	一九四四年一月二九日
伝道師	津田 喜九郎	一九四七年一月一三日	主教	フィリップ・K・ラフィン	一九二八年一月三〇日

司祭ダビデ藤井八郎 師追悼



Long time no see.

釧路聖パウロ教会牧師
厚岸聖オーガスチン教会(伝道所)
管理牧師

司祭 サムエル 吉野 暁生

「久しぶりですね」

一九九年前、藤井八郎司祭が最初にお会いした時にわたしにかけてくださった言葉だ。急に訪ねてきた得体のしれない若者を、なんのためらいもなく受け入れてくださった。「久しぶり」と思ったのは父のこを知っていたからだ(後で聞いた)その時からそこがわたしにとつての「北海道の実家」となった。「こいつを牧師にしたい」と故・桑山

はあまり好まれないが「師父」という言葉がびったりだ。

神学校に行っている間も、北海道に身寄りのないわたしはつかの間の休暇の間旭川に

執事が平取からわたしを伴って、旭川を訪ねた時のことだった。

そのまま先生に様々なこと

を教わりながら、旭川で生活を始めた。ガソリンスタンド

での仕事が終わると、教会に

寄って作業をしたり、話をし

たりした。先生のところには

たくさんの方が集まってきた。

納内で農業をするYさん、

近くに住んでいてよく飲んで

現れるTさん、当麻からパン

を売りに来るヒゲのSさん、

ルーテル教会のAさん、青年

Nくん、エリザベス女王が大

好きなKさん、e t c. 先生

は来た人はどんな人でも受け

入れて、時に厳しく指導する

こともあったけど、見守る姿

勢は崩さなかった。わたしに

とつて先生は「師」であり、

北海道の「父」であった。今

「帰省」しながら、藤井先生

ご夫妻にお世話になった。先

生に教わったことはたくさん

ある。きれいに芝刈りをする

方法、疲れない除雪の仕方、

雪国の運転の仕方、もうタバ

コはやめてしまったけどパイ

プの吸い方も教わった。その

時にいただいたパイプと草は

今も大事にしまつてある。

神学校を卒業して勤務する

とき、藤井先生の足跡を辿っ

ているような気になった。岩

見沢で、美唄で、網走・北見で、

苫小牧で。藤井先生の話をす

るとたくさんの人たちが懐か

しそうに話をしてくれた。苫

小牧ではMtSの働きをする

なかで、本当に精力的に動か

れていたことを知った。そし

て「そんな働き方は自分には

できない」ことも知った。結

局MtSの働きはわたし自身

が畳むことになった。その時にも先生のお力を借りてしまつて、とても申し訳ない気持ちになった。

今、釧路で勤務している。

時々牧会上どうしようと迷う

とき「藤井先生ならこうす

る」と考えることがある。今

まで教わったたくさんしたこと

は、わたしの中で少しずつ息

づいている。釧路には先生の

足跡はあまりない。そして先

生は先に天の国に旅立たれて

しまった。本当は「どうした

らいいでしょう」と相談した

いところだけど、「ここから

先は自分で歩きなさい」とい

う先生からの激励の言葉なの

だ、と何とか思うようにして

いる。

藤井先生、またいつかお会

いするとき、今度はわたしか

ら「久しぶりですね」と声を

かけます。多分まだちょっと

時間がかかりますけど、待つ

ていてください。

「And I lay down my
life for the sheep」

札幌聖ミカエル教会牧師

函館聖ヨハネ教会管理牧師

今金インマヌエル教会管理牧師

司祭 ノア 上平 更

一〇月二二日、函館での礼拝を終えて今金に向かう前、ご家族と一緒に牧師館の前で見送ってくださったのが最後に見た先生の笑顔だと思つていました。二七日、通夜の祈りのために到着した時の棺には、先生の「しつり顔」がありました。

藤井先生とはつきりとした記憶にある教会での交わりは、私が大学生として稚内で暮らし始めた頃にさかのぼります。先生は二〇〇〇年から管理牧師として稚内聖公会に定期的に奉仕にいられていました。当時、私は全く不真面目な信徒であるにも関わらず、稚内聖公会に宿を借り、自由気ままな大学生活を送っていました。友人たちと土曜日の遅くまで教会の部屋で騒ぎ明かして寝ていたところを

藤井先生に起こされたことも
あります。

二〇二二年四月に、植松誠
前主教より函館・今金の教会
を藤井司祭と共に牧会するよ
うにと任を受けて以来、先生
との毎月の手紙や電話のやり
取りが始まりました。函館・
今金で一〇年以上奉仕されて
きた働きについて、またこれ
からの課題として考えている
こと、あらゆることについて
物覚えが悪い私に、何度も話
し、新米管理牧師として、し
なければならぬことを教え
てくれました。そして、教会
に着くと、いつも境内地の
隅々までを気にして、誰がい
つ訪問してもいいように(動
物たちの訪問も含めて)用意
されている姿がありました。

うために来訪されていること
もありました。そのような
方々のことを、先生は「出会っ
た」という過去の話ではなく、
庭の花木にいつも気を配って
いるのと同じように「今どう
過ごしているのか」というこ
とにていねいな関心を寄せ
て、彼らとの出会いから順々
に話してくださいました。何
にでも興味を持ち、多趣味で
あったことも、たくさんの人
と出会う中で積み重ねてきた
賜物であったと思います。

旧約聖書には、サムエルが
エッセイと息子たちをいけに
えの会食に招いた時、末の子
ダビデが、呼ばれるまで羊の
番をしていたとあります(サ
ムエル上二六:一一)。主の
御許に召される直前の一日ま
で、信徒宅を訪問し、主に遣
わされた牧人として生まれ
た藤井先生の姿は、見失った
一匹を探し出すまで歩き回る
「良い羊飼いの」姿に重なり
ます。主に従い歩まれた藤井
司祭の姿を心に留め、主が備
えてくださる道を、折が良く
とも悪くとも、喜びと感謝の
うちに歩んで参りたいと思い
ます。

藤井司祭のご逝去を悼みて

函館聖ヨハネ教会

ヤコブ 志賀 直信

「いかに美しいことか山々を
行き巡り、良い知らせを伝え
る者の足は。」

(イザヤ書五二:七)

いま、私の手許に一葉の写
真があります。近々札幌の高
齢者施設に入居するS姉宅で
家庭聖餐と塗油の祈りを終え
たときのもので、とても穏や
かな笑みの藤井司祭が写って
います。最後の最後まで聖職
者としての務めをやり遂げ、
安堵されたことでしょう。
亡くなられる前日の朝、司
祭からお昼に病院でピック
アップして大沼のS姉宅へ
送って欲しい、との電話があ
りました。直夫人が会計手続
きをされている間、司祭は主

使いの祈りの紙片を渡され
たこともありました。教父母
としての役目にハッと気づか
されました。
永きにわたって司祭の生き
様に接し「全てのことには時
があり、全て主が整えてくだ
さる」ことを確信しました。

私たちは、全身全霊主にお仕
えした藤井司祭のお姿を胸
に、喜びをもって礼拝、教会
活動に邁進します。先生、天
国から私たちを見守ってくだ
さい。



あるとき、私のレターケー
スにジル・マックギルブレ
イ著『いのちを育むパストラル
ケア』(聖公会出版)が入っ
ていました。もっとプロ意識
をもって奉仕しなさいとのサ
インだったと思います。ま
た、(しばらく礼拝に来られ
ていない)ご夫婦のために毎
日祈って下さい、と温かな筆

青森聖アンデレ教会



主教が定住する、あずまし
い教会です。青森駅から中心
部方向に車で六分、徒歩二四
分。ネプタ運行の国道四号線
までは一〇分の所です。宣教
開始から一三一年が経ちまし
た。二〇〇三年、現在地に聖
堂、牧師館及び聖マリア幼稚
園を移転新築。信徒数は約
六〇名。英国ホワイトチャペ
ル社製の鐘が毎日七時、一七
時半。主日は九時半と一〇時
四五分に鐘打され、厳かな癒
しの音を響かせています。市
内に関係する幼稚園が三園
(聖マリア、聖アルバン、聖
ヤコブ)ございます。園児を
愛し、また愛されている教会
でもあります。



二〇二三年一〇月二五日〜三〇日 笹森主教と行く小笠原聖ジョージ教会

司祭 クリストファー 永谷 亮(幹事)



小笠原聖ジョージ教会・開会礼拝後

一〇月二五日より三〇日ま
で、団長の笹森主教、幹事の
私その他、各教会の一〇名、合
わせて一二名で東京都小笠原
村・父島にある東京教区小笠
原聖ジョージ教会を訪ねまし
た。

父島までの交通機関は六日
に一遍の「おがさわら丸」の
み。東京の竹芝桟橋から二四
時間の船旅です。東京教区の
藤田誠執事が見送りに来てく
ださいお祈りもしてください
ました。海は穏やかで定刻通
り翌午前一一時に父島・二見
港に到着。教会での開会礼拝
の後、三角クジを引いてヨセ

フ号、マリア号、イエス号
の三台のレンタカーに分乗し
て島内を散策、ビーチめぐり
では空と海の碧さに感動。教
会墓地では笹森主教様と祈り
をともしました。夕方には
ウエザーステーションで夕日
を眺め、夕食は信徒経営のレ
ストランで地元の食材を使っ
た料理をおいしく、楽しくい
ただく。

二日目は信徒ご夫妻のガイ
ドによる夜明け前の自然ツ
アーから。月明かりを飛ぶオ
ガサワラオオコウモリの観察
や、固有の草花・樹木にふれ
ました。一旦宿へ戻り、戦跡
ガイド・板長さんによる父島
に残る太平洋戦争の戦跡をめ
ぐるツアーに参加。山の中を
歩きながら、時にはロープを
つかんで登りながら戦跡一つ
ひとつから歴史と人びとの
話・エピソードを聞く。ここ
で藤井司祭の計報に接し、各
自足を止めて黙祷。その後改
めて一同集まり、藤井先生の
霊の平安とご家族のために祈
りました。夕食は島内の居



南島の東尾根から望む「扇池」

酒屋で。「ウミガメのもつ煮」
は人によって好みが分かれた
もよう。

三日目は一番の天候に恵ま
れ海は風。この日は海のツ
アーで、まずは南島へ上陸、
息を呑むほどの景観に時が止
まり、約千年前に絶滅したと
いわれる固有種「ヒロベソカ
タマイマイ」などのカタツム
リの半化石でタイムトリッ
プ。外海ではイルカたちとの
ドルフィンスイムや、マッコ
ウクジラのホエールウォッチ
ングを楽しみました。夜には
ナイトツアーで満月、木星、
土星を巨大望遠鏡で観察、月
光浴とウクレレの生演奏に癒
されました。



教会のみなさんへ自己紹介

の皆様と聖餐式。礼拝後は茶
話会で交流を深め名残惜しさ
を感じながらのお別れに。信
徒の方々から一人ひとりにい
くつものレイが贈られ、午後
三時、船は二見港を出港。岸
壁からは「行つてらっしゃい」
のたくさんの声。また来ます
という思いを新たにしました。
教会の仲間たちとの船旅は特
別に楽しく、こうして信仰の
旅も共に歩んでいるのだと感
謝でいっぱいになります。島
への訪問、出会いと交わり、
共に旅をした教会の仲間、こ
の機会を与えてくださった神
さまに感謝いたします。

※参加者(敬称略)／主教笹森田鶴
／司祭内海信武／司祭永谷亮／鈴木
幸夫・鈴木かほる(札幌)／山崎典
美・山崎直子(旭川)／雨宮壽子(三
コラス)／雨宮春子(ミカエル)／
内海鏡子(平取)／鮫名由美(旭川)
／和田弓(網走)

宣教一五〇年実行委員会報告 Ⅸ

司祭 サムエル 吉野 曉生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。今回は、今一度「宣教一五〇年」についてのお話をしたいと思います。

まず一月二二日(水)午後三時に開かれた「第八三(定期)教区会」の中で「宣教一五〇年」プロジェクトについてのお話をさせていただきました。この機会を設けてくださったことに感謝いたします。その時の様子は、各教会の代議員の方からぜひうかがってくださるようお願いいたします。

その席上でもお話したことです。宣教一五〇年のプロジェクトは、二〇二四年七月の「記念礼拝」だけで終わるものではなく、今年からスタートし、二〇二四年以降も続く宣教的な活動です。要するに「宣教一五〇年



という節目を機に、教区の宣教活動を盛り上げていこう」という目的で行っています。だからこそ、札幌圏だけで行うのではなく、できるだけ多くの教会で、小さなことでもいいから何か行うことができると考えています。そして、このプロジェクトの成否は、皆さん一人一人が「他人事」ではなく、「自分たちのこと」として、少しでも参加してくださることにかかっています。ぜひご理解とご協力をお願いいたします。

「宣教」は、「牧師」や「宣教師」や、教会の「宣教担当者」という「誰か」がするものではなく、「キリスト者」全員の大切な務めです。いろいろなやり方で、いろいろな人にかかわっていただけるように、プロジェクトを進めていきますので、お祈りのうちに支えてくださいますように。それではまた来月、お会いしましょう。

「宣教」は、「牧師」や「宣教師」や、教会の「宣教担当者」という「誰か」がするものではなく、「キリスト者」全員の大切な務めです。いろいろなやり方で、いろいろな人にかかわっていただけるように、プロジェクトを進めていきますので、お祈りのうちに支えてくださいますように。それではまた来月、お会いしましょう。

北海道教区第八三(定期)教区会報告

司祭 ヨハネ 池田 亨

一月二二日(水)午後三時より翌二三日(木)午後三時半まで二日間にわたって、札幌キリスト教会を会場に主の恵みの内、開催された。

第一日
主教笹森田鶴議長のもと、道内より聖職議員一〇名、信徒代議員一八名、出席。議事がスタート(ただし、開催の時点の出席議員数)。第一日は午後五時半まで各委員会および各部の諸報告が行われた。

夕食をはさんで、午後七時よりオープンプログラム。「チーム北国」による特別企画で東北教区とオンラインで結び、相互の諸教会の紹介。各教会に割り当てられた時間は短いながらも、ユーモアあふりの楽しい時間を分かち合った。

会となった。さらに参加者が少数グループとなり宣教協働における具体的なアイデアを出し合う。その後、各グループ代表により発表のときを持つ。「姉妹教会を結ぶ」「出会いと交わりの日の拡大(東北教区も含め)」等が報告された。午後八時半、第一日終了。

第二日
午前九時、主教座聖堂にて聖餐式。笹森主教司式、越山健蔵司祭による説教。(※越山司祭は北海道出身の東北教区司祭であり定年退職後、東北教区嘱託司祭を経て、昨年から紋別聖マリヤ教会および紋別幼稚園園長としての働きを担って下さっている。)「タラントンのたとえ(マタイ二五章一四以下)」からの説教。神から全幅の信頼をもって貸し与えられたタラントンを生かし、その神の全幅の信頼、その恵みに喜びをもって応え、その実りを報告する姿に、福音に生かされ生きる私

たちを見たい…。越山司祭の説教に一同、励ましと慰めを受ける。なお、信施金は今入金インマヌエル教会補修工事のためさげられた。

聖餐式後、しばしの休憩をはさみ、議事再開。順次、重要議案の進行をみる。とりわけ、第一〇号議案。常置委員会提案の「東北教区・北海道教区宣教協働・教区再編に向けてのミッション・ステートメント二〇二二を採択する件」が賛成多数で採択された。ステートメント本文には「わたしたちが一つになることで目指すのは、…弱さの中で福音を宣べ伝え、行きつづまりの中で宣教的視点を転換する福音の実践」と謳われている。昼食後、議事再開。おもに常置委員会選挙・総会代議員選挙を行う。常置委員に聖職・大町信也司祭、下澤昌司祭、永谷亮司祭を選出。信徒・大友宣さん(札幌聖ミカエル)、小沢暢子さん(札幌聖ミカエル)、吉谷かおるさん(札幌キリスト)を選出。総会代議員に聖職・木村夕子司祭、三浦千晴執事を選出。信徒・大友宣さん、吉谷かおるさんを選出。午後三時半、祈りをもって定期教区会終了。

教会だより December



ありますようにお祈りいたします。

保育園は一日教会の礼拝堂にて幼児祝福式をしました。その後は、クリスマスお祝いの準備を皆でしています。思い出に残るクリスマス会でありますように。

▽岩見沢聖十字教会

一月に入り、幼稚園ではクリスマス会へ向けての練習が始まりました。年長は聖誕劇、他の学年は歌や劇に一生懸命に取り組んでいます。

一九日、帯広聖公会のパウロ寺本睦夫司祭ご逝去の悲しいお知らせ。師は昭和四五年から八年間、教会と園の牧師、園長を務められました。園と連名で弔意を表しました。

二二日から札幌キリスト教会で教区会。畠山秀明兄が出席。東北教区とオンラインで各教会の紹介に盛り上がりました。北海道教区と東北教区は主に在りて一つです。

▽釧路聖パウロ教会

中、一月に入ってから、釧路でも急に真冬並みに冷え込む異常気象の日が出てきました。「異常気象傾向が続くと日本の『四季』は夏冬の『二季』になっちゃうんじゃない？」と心配する人もいます。

▽厚岸聖オーガスチン教会

全国的に異常気象が続く

感謝祭。聖歌は二二三番、二二一番、二六〇番。主に収穫感謝を奉げる歌詞を歌い上げ、吉野司祭の説教では病を抱える人々・貧しい人々との「分かち合い」をことに深く覚える日であることを学びました。

▽帯広聖公会

礼拝後、一カ月振りのお茶会。収穫感謝を信徒たちと噛みしめるお茶会でした。月末の二六日は早くも降臨節前主日。一年はあつと言う間です。パウロ教会では礼拝後、オリーブ会でリースをつけたたり、アドベントクラウンツを作ったり、降臨節の飾り付けを皆でわいわい準備。大忙しでした。今年はどうなクリスマスになるか、楽しみです。

去る十一月十九日、敬愛する司祭パウロ寺本睦夫先生が、神様の憐みのうちに安らかに主のみもとに召されました。九三歳一カ月の地上でのご生涯でした。

一月二〇日、二一日と帯広聖公会にて通夜の祈り、葬送式が執り行われました。先生は一五年に亘って帯広聖公会で牧師として働かれ、お世話になつている信徒も多く両日とも笹森田鶴主教はじめ多くの司祭・信徒でお送りしました。主の平安を寺本睦夫先生に祈るとともに、ご遺族の方々に主よりの慰めを祈ります。

▽稚内聖公会伝道所

暖冬とは言われていますが、一二月の終わりになると、さすがに稚内は厳しい風雪にさらされます。そんな天気の中でも、三〇日、使徒聖アンデレ日には聖餐式を行いました。気がつくとき観光客も影を潜め、ホテルはビジネス関係とおぼしき人々が主流です。管理牧師はJRを利用しますが、鹿が線路の上に居座り、度々の急ブレーキ、そして接

▽函館聖ヨハネ教会

触が起こり、昔はこんなことなかったのにと、自然界の変化を感じます。冬が始まったばかりですが、春が待ち遠しい稚内です。

五日、逝去者記念礼拝。代祷時、司祭が当教会関係逝去者全ての名を読み上げ祈る。その中には過日逝去された藤井司祭様への祈りも。その二週間後には寺本司祭様の逝去の報もあり、何とも悲しい死者の月。そしてお二人の当教会への心ある司牧にただ感謝。

▽苫小牧聖ルカ教会

一九日子どものための礼拝には、幼稚園の協力の元、四組の園児ご家族の参加。礼拝後お菓子の配布に子ども目

が輝く。二九日夜の教会開放。礼拝堂周囲に電飾配置。良きクリスマスをお迎えください。

藤井司祭逝去後も直夫人が牧師館に住まれ、教会を守つてくださっています。五日み言葉の礼拝、二二日上平司祭、一九日木村司祭、二六日は笹

一九日子ども祝福式をしました。子ども達はブレゼントをもらいニッコリでした。

一九日は下澤司祭、留萌に出張。信徒による久し振りの「み言葉の礼拝」をしました。

二二日、アブラハム喜多見和典さんが急死されました。突然のことなので、皆驚きました。ご家族に主のお慰めが

二二日から札幌キリスト教会で教区会。畠山秀明兄が出席。東北教区とオンラインで各教会の紹介に盛り上がりました。北海道教区と東北教区は主に在りて一つです。

全国的に異常気象が続く

▽帯広聖公会

去る十一月十九日、敬愛する

森主教により礼拝をお捧げしました。

一二日、聖堂コンサート。終戦直前に教会が売りに出した米国のリードオルガンを当時のオルガンスト吉岡幸さんが買取り、ご自宅に眠っていました。それがお孫さんの手によって発見、修復され、一〇〇年以上前の音色が復活。一〇二名の聴衆がその優しい音色に浸りました。BBCの放送、地元新聞二社により報道され、函館市民の話題となりました。

教区会へは志賀直信さんが出席。近所の方にも庭仕事や除雪を手伝っていただき感謝です。

▽札幌キリスト教会

一〇月一日の収穫感謝礼拝後は今金インマヌエル教会のじゃがいもを販売。益金を同教会にお捧げしました。七日、中西智之さんとクララ鈴木琴さんの聖婚式。一五日、四年ぶりの婦人会例会では、教区発行『葬儀への備え』『信仰のデザインノート』について学びました。二一日

(土)、「平和について考える祈る集い」がオンライン開催され、沖繩の現状について共に学び祈りました。二二日、秋の大掃除。二五日〜三〇日、笹森主教を団長、永谷司祭を幹事とし、小笠原聖ジョージ教会へ訪問。当教会より二名参加しました。

▽札幌聖ミカエル教会

五日、主日聖餐式中に、たくさんの家族が見守る中、幼児祝福式が行われました。一〇月から試験的に開始された英会話教室も正式に開始して約一五名の子ども達が英語で歌ったり、話したり、毎週月曜日楽しい声をHEROBAに響かせています。雨宮春子姉は今月からまたタンザニアへ、道中、現地での健康と安全を祈ります。二六日の礼拝後、青年たちの協力を得てアドベントの飾りつけを終えました。ミカエル幼稚園では一日に生活発表会を無事に終えて、次は冬休み前のクリスマス礼拝に向けて準備中です。

▽新札幌ニコラス教会

週報の棚を使いやすくする

ため、縦型から横型にししました。大枠を維持したまま棚板の配置を変えることで、大がかりにならずに横型へと変更することができました。第四週降臨節前主日は松井司祭の今年度最後の礼拝でした。長渕剛の歌が流れ、大変印象深いお話をいただきました。クリスマス準備もお手伝いください。松井先生と今年度最後の楽しいひとときでした。感謝。

▽聖マーガレット教会

近くの藻岩山もすっかり冬化粧、アドベントを待つ時期となりました。

礼拝後クリスマスに向けて聖歌隊の練習が始まりました。一二日はみ言葉の礼拝、木村淳信徒奉事者による司式と証し。聖書の言葉と葛藤しながら純粹なまでに教会を愛した青年時代を語られました。一三日大町包ご一家に長男が誕生しました。オメデトウ!

二六日のみ言葉の礼拝と陪餐の式で、一九日に逝去された寺本司祭を覚えて祈りました。

した。一九八五年から五年間、当教会でエネルギーシユな牧会はもとより、教会墓地の建設にも大変ご苦勞されました。寺本司祭の霊の平安とご遺族の慰めのため祈りました。

▽有珠聖公会

伊達歴史文化ミュージアムにおいて「ジョン・バチラーとバチラー八重子」展が開かれています。企画展のプログラムとして一月三日には、教区所蔵で、有珠聖公会で保管展示されている幻灯機とガラススライドを用いて映写会が行われ、「放蕩息子のだとえ」と「善きサマリヤ人」のスライドを用いて、大町司祭が講演しました。

二六日、聖餐式。礼拝後、間近に迫ったクリスマス・コンサート^{びらとり}の諸準備を行いました。

▽平取聖公会

一月初週に逝去者記念礼拝を捧げました。新たにヨハン山崎喜一郎さんとアキラ上平仁志司祭が加わりました。また、一九日にはパウロ寺本

睦夫司祭が主に召されました。

教区会には高橋代議員と内海司祭が出席されました。

記者は一月に旅行で大分聖公会に山崎真司司祭を訪問しました。一八八七年にCMSのJ・ブランドラム宣教師が伝道を開始しています。また、教団・別府野口教会に清野量牧師を訪問しました。元は聖公会の教会でしたが、先の大戦下に教団に統合された歴史を持っています。驚いたことは清野牧師が酪農大学の私の後輩だったことです。

▽留萌キリスト教会

訪れる人を元気にしてくれた街のくすり屋さん射場智恵子さん、市立病院の総婦長を長く務められた土門明子さん、お二人が相次いで天に召されました。女性として、妻として、母として、職業人として留萌で生きた生涯に触れて、人を励ますことを人生の喜びとしたお二人の共通点を感じました。教会を大切に思ってお支えいただいたことに深く感謝いたします。教会は寂

しさを感じます。年配の信徒は一層身に応えるようですが、クリスマスの温かい光に照らされる事を願っています。

▽北見聖ヤコブ教会

白い雪。埃っぽい小径に御使いが降りて来たよう。一月五日全逝去者記念礼拝。逝去者名を一人一人読み上げることは一つの説教のようにも思われる。この日は収穫感謝礼拝でもあり、祭壇のところに収穫物を献げ、大地の恵み・労働の稔り・私たちの命の糧となるものを賜る神に共に感謝を献げ、すべて終了後、司祭はブライダルの奉仕へ。二〇日メンテナンスを終えた除雪機が戻り、玄関で存在感を放つ。トイレや台所のポータブルストーブのために灯油を用意する必要がある。

▽紋別聖マリヤ教会

暖かかった秋も終わり雪が降り、あたり一面銀世界です。寒さが続いております。一月一二日越山司祭の聖餐式が行われました。元気に岡村カナさんも出席されました。

二二日、二三日、札幌キリスト教会で教区会が行われ、エリックソン久美子さんが出席されました。寒くなります。身体に気をつけられお過ごしください。主に感謝。

▽室蘭聖マタイ教会

雪虫が飛び交い降雪を待つ季節になりました。

九日松井司祭午後来会、数人の信徒でヨブ記の輪読会を行う。ヨブ記は解釈が難しく司祭が一節ずつ解説してください感謝です。一二日松井司祭来会、埼玉より石戸谷さんが久し振りにおいでになり共に聖餐に与りました。埼玉との寒暖差に驚いておりました。礼拝後聖書輪読はテモテの手紙を行う。二三日藤井代表の代わりに教区会に参加。各教会高齢者が多く将来の不安を感じ帰路につきました。

二五日松井司祭による礼拝、聖書輪読会の予定です。

▽今金インマヌエル教会

一月一二日の礼拝を守り、その後今金の食堂は不味い疑惑を払拭する為、上平司祭と信徒お助めの食事処での

夕食会、教会では話せない妖しい話でも楽しい集いになりました。また二六日には笹森主教様御夫妻と藤井家の皆さん一名との収穫感謝礼拝、藤井八郎司祭に想いを馳せ目頭を熱くさせての礼拝でした。後の持ち寄り祝会では、

きのこ飯、おでん、ミートローフ、コロッケ、サラダに芋団子汁とお土産のどら焼、ケーキ、信玄餅等沢山のご馳走がテーブルいっぱい並びました。幸せでした。

▽新冠聖フランシス教会

一月も末日になりますと教会の周りは一変し、生い茂っていた木の葉は枯れ落ち、窓から見える日高山脈にも白い雪が少しずつ広がり、寒い冬の到来です。

聖霊降臨後第二四主日には主に召された藤井八郎司祭様、降臨節前主日には寺本睦夫司祭様の御霊の平安のため一同謹んで哀悼の意を表し、主の慰めが豊かにありますようにとお祈り致しました。また、収穫感謝祭ではそれぞれがお捧げ物を供えられ、

礼拝後は愛餐会となりました。内海鏡子夫人の心を込めてのお汁粉ご馳走様でした。感謝！

▽網走聖ペテロ教会

窓の外から雪が降り白くなる地面を見て、冬に向けての物心の準備をと思います。

一二日収穫感謝礼拝があり、礼拝後は各自持ち寄りの食事の時を持ち、今年もたくさんのお恵みに感謝しました。二二日、二三日の教区会に司祭と和田姉出席、北海道教区の諸役員が選出されました。アドベントに備え、二六日はクリスマスリース作り、毎年教会の庭の松の木がリースに使う枝を用意してくれています。小さな群れの中に神様の見守りが大人にも子どもにもありますよう祈ります。

▽深川聖三一教会

一月一二日大掃除、河野ミエさんから大量のおにぎりの差し入れに感謝。一九日主教巡回礼拝。収穫感謝祭を祝い、主教練と沼原氏を歓迎し一同で会食する。今年は猛暑で野菜は不作、キャベツや白

菜は祭壇にありませんでした。主教練より小笠原旅行団のみやげ話を伺いました。保育園職員三名も礼拝出席。婦人会近況。今や古典的な書記の厳とした官僚体制を護持、我が深川聖三一教会婦人会です。「昔の古い神様を信じるのも良いものです。」ゲートのファウストより。

▽小樽聖公会

一月五日(日)、教会委員会。お隣の「空き家問題」に関し協議する。所有者から年内の撤去不可との通知を受けたため。約束と違うゆえ、面談を強く希望する旨を書面(英文)で伝えることにする。教会委員一同、困り果てる。一月二六日(日)、降臨節前主日。教会暦最終の聖餐式後、アドヴェントリース、クラランツを作成。前日、生花店から取り寄せたヒバを入れたバケツの水が凍っていた。おしゃべりしつつ、それなりに楽しみながらの手作業。綺麗なりーす、クラランツの完成をみる。